

FNS骨セメント用器械

【形状・構造及び原理等】

1. 形状(一例)

セメントデリバリーガイド



2. 材質

ステンレス鋼、エポキシインク、クロムコーティング

【使用目的又は効果】

本品は、脊椎手術のために用いる手術器械である。

【使用方法等】

1. 準備

本品は未滅菌品のため湿熱滅菌法で滅菌した上で使用する。

2. 使用方法例

- 骨セメントの使用方法を参照し、骨セメントを準備する。
- 骨セメントをセメントデリバリーデバイス(CDD)のアウトターシース内に注入する。
- 骨セメントの使用方法を参照し、骨セメントの粘度確認を行う。
- セメントデリバリーガイドチップをセメントデリバリーガイドの遠位先端に取り付ける。
- セメントデリバリーガイドチップを取り付けたセメントデリバリーガイドを脊椎に挿入した横穴付き脊椎スクリューのスクリューヘッドにねじ込む。
- セメントデリバリーガイドに CDD のアウトターシースを挿入および固定する。
- CDD のプランジャーをアウトターシースに挿入し、X 線透視下で意図した量の骨セメントが注入されるまでプランジャーを押して骨セメントを注入する。
- 骨セメント硬化後、セメントデリバリーガイドアッセンブリ(CDD を挿入したセメントデリバリーガイド)を横穴付き脊椎スクリューから取り外す。

【使用方法等に関連する使用上の注意】

- 手術従事者は、使用前、使用中、使用後において、本品の正常性を確認すること。異常が認められる場合は、直ちに使用を停止すること。
- 手術に際しては、当社が指定した手術器械を使用すること。
- 過度な挿入及び荷重を防止すること。また、無理な力及び回転を加えないこと。本品の取扱いには十分注意すること。
- インストゥルメント等の硬いものと接触する際は、本品が破損したり、傷ついたりしないよう注意すること。
- セメントデリバリーガイドは、セメントデリバリーデバイス(CDD)、セメントデリバリーガイドチップ及び横穴付き脊椎スクリューと組み合わせて使用すること。
- 骨セメントを横穴付き脊椎スクリューに注入する際は、必ず術中透視下又は術中イメージで骨セメントの注入状態を確認しながら作業を行い、椎体外への骨セメントの漏出が確認された場合は直ちに注入作業を中止すること。
- セメントデリバリーガイドアッセンブリを横穴付き脊椎スクリューから取り外したのち、セメントデリバリーガイドからセメントデリバリーデバイス(CDD)を取り外すこと。

- セメントデリバリーガイドアッセンブリを横穴付き脊椎スクリューから取り外した際は、セメントデリバリーガイドチップが一緒に取り外したものに含まれていることを確認すること。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 本品を変形させる、又は傷をつけると、本品が破損する危険性が大きくなる。
- 脊髄、椎骨動脈等の走行に対して細心の注意を払うこと。神経又は椎骨動脈を損傷する可能性が高い場合は、他の術式を検討すること。
- 本品が高リスク手技に使用された場合には、プリオン病感染予防ガイドラインに従った洗浄及び滅菌を実施すること。
- 本品がプリオン病の感染症患者への使用及びその汚染が疑われる場合には、製造販売業者又は貸与業者に連絡すること。

2. 相互作用

併用禁忌(併用しないこと)

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
当社が認めていない 他社製品	正常な機能が得られない おそれがある。	当社以外の製品と 併用できることを検 証していない。

3. 不具合・有害事象

- 重大な不具合
 - 本品の破損又は変形
 - 本品の機能不良
- 重大な有害事象
 - 血管、神経、組織、骨、内臓又は関節の損傷及び穿孔、またそれに伴う出血、疼痛、硬膜損傷(髄液漏)、骨折、神経障害等
 - 感染
 - 破損片の体内遺残
 - アレルギー反応
 - 本品の不具合によって起こる手術時間の延長、手技の変更及び再手術
- その他の有害事象
患者及び術者の負傷

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

- 高温・多湿・直射日光を避けて室温で保管すること。
- 水等の液体の影響を受けない場所に保管すること。

2. 有効期間

【保守・点検に係る事項】の「4.使用者による保守点検事項」に基づき点検した結果、不良箇所が認められたとき及び不良が疑われるときは使用を中止すること。

【保守・点検に係る事項】

1. 一般的注意事項

- 本品は未滅菌品で供給されるため、使用前に必ず洗浄及び湿熱滅菌を行うこと。また、使用後はすみやかに洗浄及び滅菌を行って、清潔な場所で保管すること。

本品の手技書を必ず参照すること

- 2) 本品の洗浄は自動洗浄(ウォッシャー/デイスインフェクター)のみで実施することを推奨しない。
- 3) 本品の滅菌は湿熱滅菌以外のガス滅菌、プラズマ滅菌、ガンマ滅菌、乾熱滅菌等を推奨しない。
- 4) 本品への消毒剤、殺菌剤などの使用は推奨しない。
- 5) 本品の変性、劣化などが生じるおそれがあるため、135℃を超える温度を加えないこと。
- 6) 生理食塩水、ハロゲン系水溶液(塩素、臭化物、ヨウ化物等)、アルデヒド系水溶液(グルタルアルデヒド、ホルマリン等)、アルカリ性の洗浄、ホルマリン、水銀、リンゲル液は本品を腐食させるおそれがあるため使用しないこと。
- 7) 本品の洗浄は中性の酵素洗剤及び柔らかいスポンジ、ブラシなどを用いること。
- 8) 軽石、酸化アルミニウム、酸化鉄などの研磨剤を組み込んだ洗浄剤は、器械を摩耗させるおそれがあるため使用しないこと。
- 9) 洗浄工程で除去されない潤滑剤は、滅菌工程の妨げになるおそれがあるため使用しないこと。
- 10) 修理に関しては、当社又は当社の許可を得ている修理業者以外では行わないこと。

2. 洗浄方法

本品の洗浄工程は各施設で定められた基準に従って行うこと。

推奨する洗浄、消毒、乾燥処理の一例

- 1) リントフリーの布を用いて目視で確認できる汚れを除去する。
- 2) 残留物の乾燥を防ぐために、30 分以内に水の入ったトレイに本品を浸漬して濡れた布で覆っておく。
- 3) 本品は洗浄前に必要に応じて分解する。
- 4) 水道水で約 3 分間すすぐ。
- 5) 適切なサイズの毛先の軟らかいブラシ、パイプブラシなどを用いて、目視で確認できる汚れを除去する。中空部を有する手術器械は特に注意すること。
- 6) 目視で確認できるすべての汚れを除去する。
- 7) 酵素洗剤を調整し、本品を 45～60 分浸漬する。
- 8) 酵素洗剤を水道水で約 3 分間すすぐ(中空部は水道水を注入するなどですすぐ)。
- 9) 酵素洗剤を再度調節し、超音波洗浄機で約 45～60 分洗浄する。
- 10) 酵素洗剤を水道水で約 3 分間すすぐ(中空部は水道水を注入するなどですすぐ)。
- 11) 脱イオン水を用いてさらに約 3 分間すすぐ。
- 12) 清潔で吸水性のあるリントフリーの布を用いて乾燥させる。
- 13) 本品に汚れ等が残っていないことを確認する。

3. 滅菌方法

湿熱滅菌の滅菌条件は、各施設で定められた基準に従って行うこと。なお、製造元が推奨する滅菌方法の一例を以下に示す。

湿熱滅菌法

サイクル	温度	滅菌時間
前真空方式	134℃	18 分

4. 使用者による保守点検事項

使用前及び必要に応じて、以下の項目に関して点検を行うこと。なお、分解が可能な製品は、分解して点検を行うこと。

- 1) レーザーマーキング等の表示が判別可能であること。
- 2) 変色、腐食、汚れ、さび、過度な消耗等の外観異常がないこと。
- 3) 亀裂、欠け、変形、ゆがみ等の外観異常がないこと。
- 4) 嵌合部を有する製品について、嵌合部に異常がないこと。
- 5) 中空部分を有する製品について、中空内部につまり等の異常がないこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：メトロニックソファモアダネック株式会社
カスタマーサポートセンター 0120-998-305